

2019年
12月1日(日)

札幌エルプラザ2F 環境研修室
(札幌市北区北8条西3丁目)

10:00~17:30 (受付開始 9:30)

参加費

きたネット会員・学生/ 1000円
一般/ 1500円

▶ PROGRAM ▶▶▶

10:00 開会

10:10 基調講演1



この世に危険生物などいない
フィールドのリスクマネジメントを考えるために
【講師】小川 巖 氏 (エコネットワーク 代表)

クマが、スズメバチがヒトに危害を加えたとしたら、直ちに駆除の対象になってしまいます。つまり殺されてしまうのが常だ。だがヒトの側の対応に問題はなかったのか、が問われることはまずない。逆にいえばヒトが応分の注意を払ってれば、ほとんどの事故は防げるのではないか？ フィールドの達人に、多様な生物との距離のとり方について、お話いただきます。

12:00 休憩



13:10
私たちの社会は野生生物のリスクとどう向き合うか
【コーディネーター】長谷川 理 氏 (NPO法人EnVision環境保全事務所)

講演

人と動物の関わりから生まれる
新たな感染症リスクとその対応

飼育動物と野生動物の区別を考える



【講師】福井 大祐 氏
(岩手大学農学部共同獣医学科 准教授、
一般社団法人 未来を創るどうぶつ医師団 理事長)

伴侶動物、畜産動物、動物園動物といった飼育動物が持つ病原体が、自然界へ拡散するのは防止することは非常に重要です。同時に、野生動物が暮らす自然環境に存在する病原体が、飼育動物に、そして人間社会に侵出することを防ぐこともまた大切です。人と動物の健康、地球環境の健全性は一つにつながっています(ワンヘルス)。この概念をすべての生き物の生命基盤と捉え、飼育動物と野生動物の違いを踏まえつつ、共通感染症に対する早期警報とバイオセキュリティのシステムを構築することが、人間と動物の健康を守り、人と動物が共存する上での重要課題となっています。

11:10 基調講演2



変わりゆく人とクマとの距離
安全な共存をどうつくるか
【講師】間野 勉 氏

(地方独立行政法人北海道立総合研究機構
環境科学研究センター 自然環境部長)

高齢化や過疎など人間社会の変容とヒグマ生息の拡大によって、人とクマの距離が変わってきています。札幌のような大都市でも、クマとの接触は「人ごと」ではなくなっています。クマをはじめとする要注意動物に対し社会が「自分のこと」として関心を持ち、起きた問題に責任をもって対処できる社会を考え、実行するときに来ている。知識と共存の意志を共有しながら、自助、共助、公助の役割を明確にすることが必要なのではないのでしょうか。

写真提供/門間敬行

人と

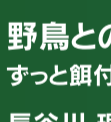
野生生物

危険生物・感染症など、リスクをもつ野生生物とどうつきあうか

事例報告



1
キタキツネは危険生物か？
エキノコックス対策の最前線
池田 貴子 氏 (北海道大学高等教育推進機構CoSTEP 特任助教)



2
野鳥との距離を考える
ずっと餌付けしていたのに、鳥フルが流行ったら追い払うの？
長谷川 理 氏 (NPO法人EnVision環境保全事務所)



3
身近な生物に潜む危険！
生物がヒトに与え得る
疫学的脅威の認識をお持ちですか？
斉藤 聡 氏 (石山通り動物病院 院長)

15:15 パネルディスカッション
「要注意生物」との共存を考える

【パネリスト】小川 巖 氏 間野 勉 氏
福井 大祐 氏 池田 貴子 氏 斉藤 聡 氏

16:30 伝え、拡げるために 全体交流会

【話題提供】
気候変動と持続可能な地域づくり
坂本 純科 氏 (NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 理事長)



フォーラム参加者の
交流と情報交換の場です

17:30 閉会

きたネット 北海道環境活動交流フォーラム 2019

ここ数年、危惧されていた気候変動や異常気象など、自然環境の大きな変化が顕在化し、私たちの暮らしにこれまでにない被害を及ぼすようになってきています。外来生物や、新しい病原菌の活動が活性化することも予想されます。一方、都市の拡大、地方の過疎化などの社会的要因から、人の暮らしと野生生物の住み分けが崩れ、野生生物のさまざまな危険な接触、人獣共通感染症などへの危惧も高まってきています。今年は「人慣れ・街慣れグマ」が各地でさまざまな軋轢を生んでおり、避けては通れない身近な問題となっています。では、人間にとって危険な生物は駆除・排除すればよいのでしょうか？ 今年のきたネットフォーラムでは、北海道に住むわたしたちが、自然の中、暮らしの中で出会う可能性がある、さまざまな危険について、そのリスク回避のために、何ができるかを学びます。

距離

お問合せ・お申込み

NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」
Tel.011-215-0148 Fax.011-215-0149

E-mail office@kitanet.org

「きたネットWeb」http://kitanet.org/

詳細は裏面をご覧ください。

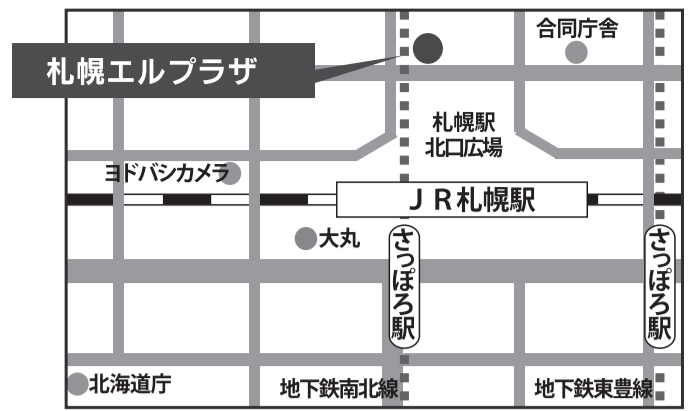
【主催】NPO法人北海道市民環境ネットワーク／一般財団法人セブン-イレブン記念財団



【後援】札幌市(予定) 【協力】公益財団法人北海道新聞野生生物基金 環境中間支援会議・北海道(環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、NPO法人北海道市民環境ネットワーク)

人と野生生物の距離

危険生物・感染症など、
リスクをもつ野生生物とどうつきあうか



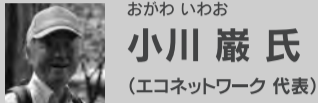
※公共交通機関をご利用ください。

2019年
12月1日(日)
10:00~17:30
(受付開始 9:30)

札幌エルプラザ 2F 環境研修室 (札幌市北区北8条西3丁目)

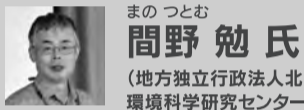
参加費 **きたネット会員・学生/1000円 一般/1500円** 事前申込要 FAX・E-mail・電話等でお申込みください。申込締切11/27(水)

基調講演



おかわ いわお
小川 巖氏
(エコネットワーク 代表)

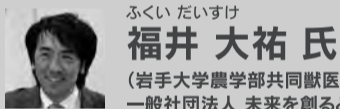
1992年から身近な自然を生かした地域作りや自然を楽しむプログラム開発と普及にあたる環境市民団体「エコ・ネットワーク」代表。北海道自然環境分野やフットパス(歩く道)の第一人者として各種委員の他、様々な団体・グループからの依頼に日本各地で講演活動やフットパスウォーク等を実施している。日本フットパス協会理事、フットパス・ネットワーク北海道(FNH)事務局長も勤める。「あなたはクマやハチと共存できますか?」「アニマルレスキュー教本・野鳥編」「フットパスに魅せられて」「歩くを楽しむフットパス」など著書も多数。



まの つとむ
間野 勉氏
(地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境科学研究センター 自然環境部長)

1960年東京都生まれ。入学した北海道大学でヒグマ研究グループに入り、野外活動と地域社会とのつきあい方を学ぶ。農学部林学科卒業後応用動物学教室に移籍し、ヒグマ個体群研究で学位(農学博士)取得。91年から北海道環境科学研究センターにて研究に従事。IUCN/SSCクマ専門家グループ日本委員、日本哺乳類学会理事、ヒグマの会副会長、北海道ヒグマ保護管理検討委員などを兼任。

講演



ふくい だいすけ
福井 大祐氏
(岩手大学農学部共同獣医学科 准教授、
一般社団法人 未来を創るどうぶつ医師団 理事長)

旭川市旭山動物園、酪農学園大学、NPO法人EnVision環境保全事務所の勤務を経て、斬新な視点で獣医学教育に従事する。動物園水族館の動物の福祉と獣医療の充実を目指す法人を立ち上げ、ワンヘルスの視点で、人も動物も健康で幸せにらせる地球環境の健全性につなげる活動を展開中。

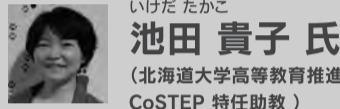
きたネットフォーラム2019 コーディネーター



はせがわ おさむ
長谷川 理氏
(NPO法人EnVision環境保全事務所)

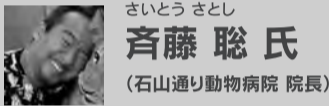
1972年神戸市出身。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了・博士(地球環境科学)。鳥類を中心に、希少種から外来生物まで様々な野生動物の調査研究や対策業務に従事。道内各地でトークイベントや市民フォーラムなどの普及啓発活動を企画・開催している。共著書に『鳥の自然史-空間分布をめぐって』(北海道大学出版会)。

事例発表



いけだ たかこ
池田 貴子氏
(北海道大学高等教育推進機構
CoSTEP 特任助教)

1980年神奈川県出身。北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了・博士(獣医学)。専門は都市部に生息するキタキツネの生態学。科学技術コミュニケーション教育・研究の一環として、学生らとエキノコックス予防策の社会実装に取り組む。2018年からは、沖縄科学技術大学院大学と協同で侵略的外来生物であるヒアリの教育パッケージも開発中。



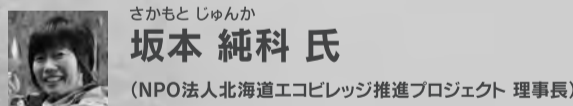
さいとう さとし
斉藤 聡氏
(石山通り動物病院 院長)

札幌出身。世界100ヶ国あまりで数ヶ国語を酷使し、希少動物の調査や絶滅危惧種の保護活動を行っている獣医師。道内のヒグマの生息調査を30年しており、過去にヒグマに襲われかけて重傷を負ったことや、深夜に2時間追いかけ回されたこともある。NPO生物医科学研究所所長兼首席専門官、酪農学園大学大学院特任教授看護学科教諭、環境省希少動植物保護推進員、中国北京農学院獣医国際教育特別顧問、野生動物リハビリテーター協会副理事長など現職。

パネルディスカッション

【コーディネーター】長谷川 理氏
【パネリスト】小川 巖氏 間野 勉氏
福井 大祐氏 池田 貴子氏
斉藤 聡氏

伝え、広げるために～全体交流会



さかもと じゅんか
坂本 純科氏
(NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 理事長)

1991年北海道大学農学部卒業後、札幌市環境局勤務。2004年に退職、まちづくりや環境NPOに関わる。2006年エコビレッジデザインエデュケーション受講、2007～2008年英国ウェールズ大学院留学。ヨーロッパでの環境市民運動を経て2009年にエコビレッジライブ体験塾設立、2012年余市に拠点を移し、エコビレッジモデルに持続可能な暮らしと地域を实践、普及する活動を進める。

TIME TABLE

- 10:00 開会
- 10:05~ INTRODUCTION
- 10:10~ 基調講演 1
この世に危険生物などいない
フィールドのリスクマネージメントを
考えるために
【講師】小川 巖氏
- 11:10~ 基調講演 2
**変わりゆく人と
クマとの距離**
安全な共存をどうつくるか
【講師】間野 勉氏
- 12:00~ 休憩
- 13:10~
**私たちの社会は
野生生物のリスクとどう向き合うか**
【コーディネーター】長谷川 理氏

講演

**人と動物の関わりから生まれる
新たな感染症リスクとその対応**
飼育動物と野生動物の区別を考える
【講師】福井 大祐氏

事例報告

- 1 キタキツネは危険生物か?
エキノコックス対策の最前線
池田 貴子氏
- 2 野鳥との距離を考える
ずっと餌付けしていたのに、鳥フルが
流行ったら追い払うの?
長谷川 理氏
- 3 身近な生物に潜む危険! 生物がヒトに与え得る
疫学的脅威の認識をお持ちですか?
斉藤 聡氏

15:15~ パネルディスカッション
**要注意生物との
共存を考える**

16:15~ 休憩
16:30~ 伝え、広げるために 全体交流会
17:30 閉会

フォーラム参加者の交流と
情報交換の場です

参加申込書 FAX. **011-215-0149** FAXまたは郵送、E-mailでお申込みください(11/27(水) 締切)

お寄せいただいた個人情報は、きたネットからのイベント等の案内以外には使用いたしません。

お名前(フリガナ)	所属団体・企業・職業・学校
ご住所 〒	Tel Fax E-mail
フォーラム終了後の交流会に参加希望の方は下の欄に <input checked="" type="checkbox"/> を付けてください。	
<input type="checkbox"/> 18:00~交流会に参加する(会場/札幌駅周辺・参加費/実費(当日支払い))	

We love, We Save... きたネットとは

地球の森林の1/700が北海道にあります。多様な野生生物や植物がこの豊かな自然の中でいのちを育んでいます。「きたネット」は、この北海道の環境を守り、次の世代にひきついでいくために活動する、市民団体59団体(2019年10月現在)と、活動に賛同する個人や企業が所属する、環境活動のネットワークです。

参加申込み

NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8番地 愛生館ビル5階
Tel. 011-215-0148 Fax. 011-215-0149 E-mail. office@kitanet.org
きたネットWeb http://kitanet.org きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org

一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

本フォーラムは一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を
いただき開催いたします。



http://kitanetv.blogspot.jp/
きたネットでは行事などの動画をインターネットで発信しています。
本フォーラムの一部も後日録画配信を行う予定です。